

今年も無病息災で健康な一年を

鬼火焚きと七草粥会

新春恒例の「七草粥会」が1月10日、西多久町くど造り民家「森家・川打家」で行われました。寒さ厳しく雪の舞い散る中、夜明け前から一年の健康と無病息災を祈る鬼火焚きが行われ、その炭火で暖をとりながらの七草粥会は、市内はもとより、県内各地より参加がありました。正月七日に七草がゆを食べれば、1年を元気に過ごせると言われ、この七草粥会も「年末年始で疲れた胃腸を休めてほしい」と始めて9回目。親子連れも多く、七草粥のほか幡船汁や女山大根を使ったふるふき大根など、西多久町内で穫れる食材で婦人会のみなさんの手づくりを味わった皆さんは、「あっさりしていて美味しい」と話し、心身を満足させていました。



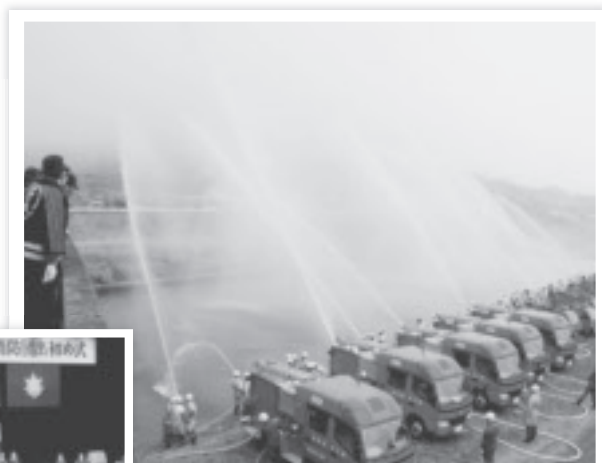
▲七草がゆを楽しむ家族連れ

消防団は地域防災の礎

新春恒例の出初め式

多久市消防団の出初め式が1月11日に行われ、緑が丘小少年消防クラブ鼓笛隊を先頭に、団員約400人が消防署グラウンドから式典会場の中央公民館まで、横尾市長の観閲を受けて隊列行進しました。

式典では、行方不明者捜索の際に協力された等覚寺・小寺亮伝住職と救護施設しみず園・清水泰輔園長、全国消防法方大会へ向けた選手の練習場として施設を提供された株式会社ヒガシ21多久ロジネットセンター・松永敏秀センター長が一般協力者として表彰。永年勤続などの団員の表彰の後、陣内成和団長が「市民の生命財産を守ることが消防団の使命です。市民の付託に応えられるように努めてください」と、参列した団員達に年頭の訓示を述べました。



▲牛津川河川敷での一斉放水
◀『すばらしい言葉』を合唱する
こぼと保育園幼年消防クラブ

東多久を住みよい町に！

東部小6年生が市長に要望

東部小の24人が社会科学習『私たちの暮らしと政治』でまとめた要望を持って12月15日、市役所を訪れました。

「東多久をもっと住みやすい町にするにはどうしたらよいか」がテーマ。インタビューで分かった医療、交通、生活、施設の住民の願い4項目から、「安全安心が高まる光る横断歩道」と「地域とふれあいを深め、憩いの場にもなる介護福祉施設の整備」の必要性を横尾市長に提案しました。横尾市長は「まず、計画、コスト、効果まで考え、地図やグラフも使用した分かりやすいプレゼンテーションが素晴らしい」と話し、具体化するまでの問題点や政治の流れを説明し、可能性も補足。樋口賢太君、峰優也君、星川詩織さん、本嶋紗帆さんの4人は「優しい心が大事で、そんな人が集まって町はよくなるの言葉にハッとさせられ、たくさんのアドバイスが勉強になった」などと話しました。



▲「市長さんに話を聞いてもらえ、勉強になった」と話す東部小6年2組のみなさん

